



トマトの茎を2回潰して収益UP！

－ 高温環境下でのトマト裂果対策技術の開発 －

開発の背景・ニーズ

トマトは、9～10月は夏秋産地から冬春産地への切り替わりで単価が上昇します。しかし、近年9月、10月の異常な高温により、「裂果(図1)」が多発し、収益悪化の一因となっています。そこで裂果の低減が農家所得向上のポイントと考え、効果的な裂果対策技術の開発に取り組みました。



図1 裂果したトマト

成果の内容

裂果対策技術として、果梗捻枝（かこうねんし）を行いました。果梗捻枝とは、果実がついている茎（果梗）を、着色が始まる直前の時期にペンチで思いっきり潰す(図2)技術です。果実への養水分の流入を抑え、裂果を抑制します。

一方、潰した部分は数日で復活し、流入が再開してしまう課題がありました。そこで本試験では、一度潰した部分を3日後にもう一度潰し、組織の再生を遅らせる試験を実施しました。

2回茎を潰したことで、裂果発生率は9.7%（無処理区70.3%）、収益は759千円/10a（無処理区272千円/10a）となり、約49万円の増加となりました。



図2 果梗捻枝処理

表 果梗捻枝回数の違いによる裂果発生率、収益結果

試験区	裂果発生率	9～10月	無処理との差
		出荷収益	
	%	千円/10a	千円/10a
捻枝2回	9.7	759	+487
捻枝1回	29.9	640	+368
無処理	70.3	272	—

愛知県農業への貢献

裂果発生率の低減により、収益の向上が見込めます。また、難しい技術ではなく、作業時間も短いため誰でもできます(図3)。

今後、現場や企業と協力し、より省力的で効果の高い捻枝方法、専用器具の開発を行います。続報を期待してください。

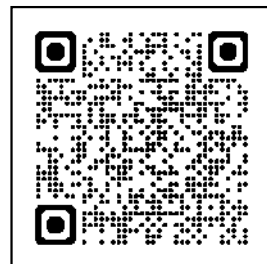


図3 果梗捻枝実演

【本研究は、JAあいち経済連、トヨタネ株式会社との共同研究で実施した成果です。】

東三河農業研究所